

## 『jo joko』

61 分／2012 年／カラー／ビデオ

撮影・録音・編集：分藤大翼

使用言語：バカ語 撮影場所：ディマコ村、カメルーン共和国東部州

撮影年：2002, 2004, 2005, 2007, 2009

**作品概要：**狩猟採集という生き方＝食べ方。身のまわりの自然から、その日に食べるものを手に入れて、分けあって食べる。カメルーン共和国東部州の熱帯雨林には、人類のもっとも基本的な文化を受け継ぐ Baka（バカ）という人々が暮らしている。彼らの言葉では「食べ物」のことを *jo*（ジョ）、なんであれ「良い」ことを *joko*（ジョコ）と言う。本作は、森に生きる人々の食事の様子を、ただそれだけを描こうとした人類学的アクション映画である。

**受賞：**UNESCO 南東ヨーロッパ無形文化財保護地域センター特別賞

### 《バカ (Baka) について》

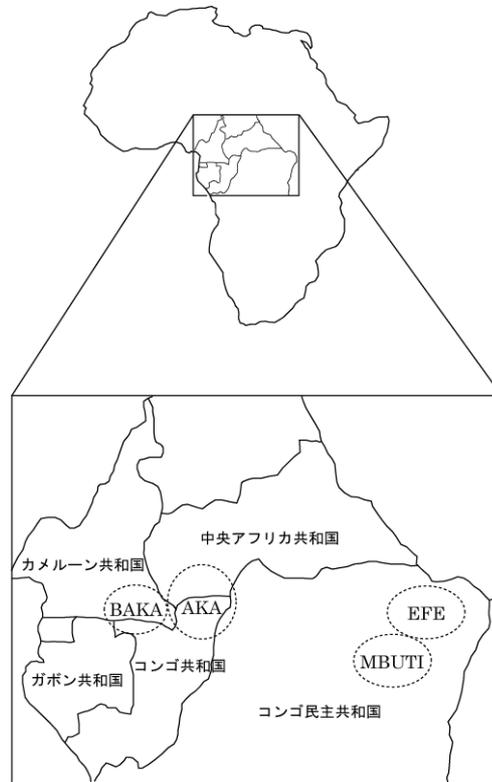
中部アフリカの熱帯雨林地域には、「ピグミー」と呼ばれる人々が暮らしている。ピグミーとは字義通りには「肘から手までの長さ」ということであり、身長が低いという形質的な特徴をあらわしている。ピグミーという言葉の人類学的な定義は、平均身長が 150 センチ以下の民族である。また人種としては、アフリカのピグミーはネグリロ、東南アジアのピグミーはネグリトと呼ばれている。

アフリカのピグミーは使用言語や自称によって 10 ほどのグループに分かれている。主なグループは、コンゴ民主共和国東部のムブティ (Mbuti) やエフェ (Efe)、中央アフリカ共和国とコンゴ共和国のアカ (Aka) である。本作に登場するのは、カメルーン共和国とコンゴ共和国北部に分布しているバカ (Baka) というグループの人々である（推定人口は 3~4 万人）。バカは狩猟採集活動に重きをおいている点で他のピグミーのグループと共通しており、音楽をはじめとして多くの似通った文化を持っている。

かつてバカの人々は広大な森の中を自由に移動しながら狩猟採集生活を営んでいた。しかし現在では、1950 年代に施行された定住化政策によって、いくつかの親族毎に集まって道路沿いに集落を形成して暮らしている。定住化は進んでいるものの、季節によって数週間から数ヶ月にわたって森の奥に入り狩猟採集活動をおこなっている。

バカの人々にとって、森は食料だけではなく、生活用具や薬を得る場所であり、歌や踊りをもたらす人々を守る精霊のいる場所、さらには、死後みずから帰ってゆく場所でもある。

【アフリカ大陸と大陸中央部の拡大図：ピグミー系狩猟採集民の分布】



【文献】（著者：分藤大翼）

「バカ・ピグミーのライフサイクル—日中活動の分析から—」『森と人の共存世界』市川光雄、佐藤弘明（編）京都大学学術出版会 33-60 頁 2001 年

「バカ・ピグミーの加入儀礼—ジェンギの秘密—」『アフリカ狩猟採集社会の世界観』澤田昌人（編）京都精華大学創造研究所 10-53 頁 2001 年

「アフリカ熱帯林における宗教と音楽」『森棲みの社会誌』木村大治、北西功一（編）京都大学学術出版会 55-65 頁 2010 年